

# 社会福祉法人中央会 平成26年度事業報告

## 【行動方針】

### 1. 平成26年度新事業「グループホームゆうけあ相河」開設

11月1日にオープンし12月には満床にすることができた。心配していた職員確保についても早期から採用したためオープンに間に合うことができた。現在、安定した施設運営が行なえている。

### 2. 特養とショートステイの運営の一体化

特養の入居待ちをしているショートステイ利用者を特養空床利用につなげやすくなった。利用者や家族にとって特養での生活を体験することができ、特養職員にとっても入居の受け入れ準備がしやすくなった。

### 3. 記録物の整備

記録管理ソフト「ほのぼの」を活用して情報共有は改善できたが、ケアプランに基づく一貫性・継続性のあるチームケアを行うためのケア記録が書けたかについてはまだ不十分だった。

### 4. 職員の育成

中堅職員のリーダーシップ研修を1年実施してきた。外部研修について職員にアンケートをとった結果、施設外研修参加に積極的でないことが分かり専門職として今後の課題である。

### 5. 地域交流の推進

米泉小学校4年生の総合学習の一環として慰問・福祉体験の受け入れを5月に行なった。子どもたちの希望で11月にも訪問があり、今後も交流を継続していくことになった。グループホーム運営推進会議には町会長・地域住民・地域包括支援センターありまつ・金沢市介護保険課職員の参加を頂いた。

### 6. 経営基盤の強化と確立

#### 【平成26年度数値目標】

特養	稼働率	98% (28.5人/日)
ショート	稼働率	100% (20人/日)
デイサービス	稼働率	77% (27人/日)
小規模多機能	稼働率	96% (登録24人/月)
グループホーム	26年度内に稼働率	100% (18人/日)

【事業別事業活動状況】

事業所（定員）	人数	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
特養 （定員 29 人）	入居者延べ数／年	9762	9600	10009	9812
	平均入居者数／日	26.7	26.3	27.4	26.8
	稼働率	92%	91%	94%	93%
ショート （定員 20 人）	入居者延べ数／年	6682	7099	7315	7381
	平均入居者数／日	18.2	19.5	20	20
	稼働率	92%	97%	100%	101%
デイ サービス （定員 35 人）	入居者延べ数／年	6680	7060	7452	8124
	平均利用者数／日	21.2	22.8	23.9	26
	稼働率 <sup>(750 人/月を 100%とする)</sup>	74%	78%	83%	90%
小規模 （定員 25 人）	契約者延べ数／年	212	258	276	246
	平均契約者数	17.6	21.5	23	20.5
	稼働率	71%	86%	92%	82%
収入小計		325,285,120	344,542,786	348,840,442	351,596,626
グループホーム （定員 18 人）	契約者延べ数／年				2439
	平均入居者数／日				16.1
	稼働率				90%
収入小計					41,418,312
収入合計		325,285,120	344,542,786	348,840,442	393,014,938

- ① 数値目標に対してショートステイ以外は達成できなかった。
- ② 前年度比較では特養、ショートステイは横ばい、デイは増加、小規模多機能は減少した。小規模多機能の減少原因は小規模多機能からグループホームへ入居した利用者が多かったためである。
- ③ 介護保険収入としてはグループホーム開設もあり 41,418,312 円増収となっているが、支出も人件費を主として増えており事業活動資金収支差額は前年の横ばいであった。

7. 各事業所評価

【特養】

- ① 担当職員と家族様との信頼関係の構築、つながりを深める

良い関係を築けている家族と、コミュニケーションの機会が少なかったり、入居者様の状態を正確に把握し伝えることが十分にできなかった家族もあった。今後も信頼関係構築に努力していかなければならない。

- ② 職員全体が看取りケアを理解し、連携の強化、質の向上に努める

職員によって理解度に差があった。今後も看取りは増えていくと思われるので

看取り委員を中心に学び職員の連携に努める。

- ③ 接遇研修での学びの定着、絶えず入居者様にとってどうかの視点をもつ身についてきていると思うが、今後も引き続き心がけていく。

#### 【ショートステイ】

- ① 職員個々が専門職としての意識を高めスキルの向上を図る  
自主的に研修に参加しスキル向上に取り組んでいる職員もあったが、職員によって意識に差が見られている。
- ② 担当による個別援助計画の立案、実践  
個別援助計画は立案できたが、業務に追われ個別ケアは十分にはできていなかった。個別ケアの実践を行っていきけるよう来年度も目標に揚げていく。
- ③ 接遇研修での学びの定着、絶えず利用者様にとってどうかの視点を持つ  
皆が意識を持ち、身についてきたように思う。継続して心がけていきたい。

#### 【小規模多機能】

- ① 転倒・誤嚥・離設ゼロ！  
9件の転倒事故があった。8件は同じ利用者様で、急速に下肢筋力の低下が見られた方だった。職員の見やすい居室に移動する等の工夫や努力を行ってきたが残念ながら防げなかった。また、誤嚥はゼロだったが離設は1件発生してしまった。二度とないように職員と良く話し合った。
- ② 接遇研修の実践研修  
「です」「ます」を言葉の語尾に付けましよう意識しているが、数名の職員が付けていないとの指摘があった。指摘のあった職員には注意し、気をつけるように促した。
- ③ 専門的知識・技術を高め、ケアに活かす  
ケアカンファレンスは月1回行っているが、勉強会については準備不足のため毎月1回行うことはできなかった。今後継続できるように工夫していく。
- ④ 利用者様と1:1で会話する  
利用者様と会話はできていたように感じる。新人職員については目標が浸透できていなかったことと、余裕がなく実行に至っていなかった。

#### 【グループホーム】

- ① 入居者が安心できるよう「ダメ」「待って」などを言わず常に寄り添った関わりを保つ  
安易に入居者様を抑制するように「ダメ」を発することはなかったが、「待って」に関しては理由を伝えずに使ってしまったことが多かったため一部達成であった。